
第2回神通川流域有識者会議 議事要旨

開催日時：平成24年9月27日（木）13:00～17:30

場 所：富山河川国道事務所 3階 大会議室

議事次第：1．開会

2．挨拶

3．出席者の紹介

4．議事

第1回有識者会議の指摘事項について

河川整備計画策定に向けた神通川の現状と課題について

5．現地視察

6．その他

7．閉会

議事

第1回有識者会議の指摘事項について

河川整備計画策定に向けた神通川の現状と課題について

<第1回有識者会議の指摘事項について>

委員からの質問なし。指摘事項の回答について了解された。

<河川整備計画策定に向けた神通川の現状と課題について>

（委員A）

- 説明を聞いて、非常に危険な川という感じがする。また、暫定堤防区間も多く、堤防は浸透に対しても危ない面もあるということだが、超過洪水対策は何か考えているのか。

（事務局）

- 現在、基本方針で想定している洪水すら流せないというのが神通川の現状である。超過洪水について対応を考えるとともに、まず神通川本川の計画流量を流すことを考えなければいけない。
- 超過洪水に対しては、Xバンドレーダーや、浸水想定区域図、超過洪水を想定した氾濫被害等のソフト対策についてもあわせて検討していく必要があると考えている。

（座長）

- 基本方針の7,700m³/sというのはどの程度の規模か。

（事務局）

-
- 平成 16 年 10 月洪水において、上流にダムがなかった場合には 7,400m³/s と想定されるため、平成 16 年 10 月とほぼ同等の規模である。だが、神通川の上流部にあるダムは利水専用のダムばかりである。そのため、必ずしもダムの容量は空いているわけではない。これらのダムには洪水調節をする責務がない。

(委員 B)

- 河岸侵食について、危ないところがあればそこを補填していくというのが今の普通のやり方だと思う。整備計画を考えるにあたって、その目標を考えられるか。

(事務局)

- 北陸地方整備局においては、急流河川の安全度という評価指標がある。また、川の澁筋の変化や、深掘れが進行しているところなどの様々な指標を用いて皆様に説明し、どこまで対策をするのかについては、整備計画の中で皆様にご議論頂きたい。

(委員 C)

- 霞堤の機能は評価され得ると思われるが、土地利用の問題が当然出てくると思う。その点をどう考えているか。
- 霞堤に限らず、堤外民地はまだあるか。
- 霞堤で囲まれた土地を積極的に買っていくということではなく、住民の方にご理解頂くということによいか。

(事務局)

- 堤外民地も存在している。
- 河川管理者としては霞堤は治水効果があるので閉じたくはない。しかし地域からの要請で霞堤を閉めてほしいという要望や、将来の土地利用の問題もあり、治水とは別の視点で議論がある。まさに地域合意の中で決めていく必要があると考えている。

(委員 D)

- 霞堤を閉めるのは、いかがかと思う。河川管理が非常に高度化してきており、霞堤の恩恵をこうむるという実感が少なくなっている。実際の大きな洪水の時に霞堤の現状を見に行くと、洪水を貯留するという機能もやはり大きい。
- 霞堤がどれだけ機能するかということを確認しておくべきだと思う。

(委員 D)

- 神三ダムはいつ頃できたものか。河床は上がっているのか、下がっているのか。

(事務局)

- 神三ダムができたのは昭和 30 年である。
- 上流区間においては河床は低下傾向、下流部については概ね安定傾向である。

(委員D)

- ダムができる前の神通川の河原は草一本生えていなかった。それが今、サバンナのような形になり、あの姿を見ると本当に川の営力が停滞したと思う。
- 本当は、川の管理は川に任せておけば一番である。とはいっても現状が現状であるため、住民の方々、鳥類の愛好家等に十分説明したうえで、河川がやらないようになったから人為的に管理するというような姿勢を示すべきだと思う。
- 富山県の河川の氾濫というのは17～18年周期で繰り返されてきた。最近はやまった気もするが、大体その周期で川がまっさらになる。そういったことを念頭に置いてやっていただければと思う。

(事務局)

- 昔の神通川は礫^{れき}河原であり、大きな洪水があると、いわゆるフラッシュをする(川の中の土砂をさらう)という機能があった。しかし、これまで護岸を整備してきたこともあって、治水的には安全になっている一方、水が流れるところが固定化し、水が上がらないところは植物が育つという現象が生じており、過去に比べれば水面の標高は下がっていると思う。
- そうなると、植物や樹木が育っている場所は多少の洪水では流れにくくなり、昔は川が自らやってくれていたことが、今はできなくなっている。
- このような経過のもとで川は今の形になっている。管理上問題が出ているところは対策を行っているが、治水や環境など様々な意見がある。今後もできるだけの説明を行っていききたいと思う。

(座長)

- 資料-2 P33 総合土砂管理の資料について、できるだけ古い時点からのデータを提示し、過去からの変化を示して頂くのがよいと思われる。

(委員E)

- 西派川については、神通川で7,000m³/s 流れた場合でも、その水は西派川には流れ込まないという理解でよいか。
- また、西派川の水辺プラザは十分賑わっていると思われるが、下流側半分が十分な活用をされていないと思われる。さらに整備をしていただいて、子供たちが川辺で遊べるような状況にして頂きたいと思う。

(事務局)

- 河川整備基本方針を検討した際には、西派川に洪水が流れる機能を持たせていない。地元要望もあったことから、西派川入り口には少し高い盛土をしてある。

現地視察後の意見

(委員B)

- 河川内の植生は随分変わっているように感じた。樹林化や植生の管理については十分議論をしていく必要があると思われる。平成18年も洪水があったということだが、河道がどう変わってきたのかというところを長年の経緯も含めて見せて頂きながら議論していきたいと思う。
- 支川についても、安全や管理について、よく考えていく必要があると思う。

(委員E)

- 井田川や熊野川の護岸工事等の整備をして頂いているが、平坦な川になってしまっていると思う。できるだけ自然に近い河川状況を作って頂きたいと思う。

(座長)

- 具体的な計画のところ、瀬、淵、上下流の連続性、横断方向にも自然の川が戻るような形での配慮が望ましいと思う。

その他【住民意見聴取について】

(委員B)

- アンケートの方法や、内容について教えてほしい。

(事務局)

- 富山河川国道事務所のホームページでアンケートを実施する予定である。
- 内容は、神通川を訪れる頻度・目的といった情報、また、どの程度安全と思うか、環境についてどう思うかなど、地域住民の方の基礎的な意見を確認していきたいと思う。

(座長)

- アンケートでは、どのくらいの回答数を期待しているのか。

(事務局)

- できれば300～400ぐらいの回答数を目標にしたいと思う。

その他

第3回神通川有識者会議の日程については、後日改めて委員各位へ日程調整の案内をする。

- 以上 -